

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-34650

(P2002-34650A)

(43) 公開日 平成14年2月5日 (2002.2.5)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テ-マ-ト [*] (参考)
A 4 5 D 40/00		A 4 5 D 40/00	U
40/04		40/04	A
40/22		40/22	

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願2000-231007(P2000-231007)

(22) 出願日 平成12年7月31日 (2000.7.31)

(71) 出願人 000252090

鈴野化成株式会社

東京都新宿区下落合1丁目3番22号

(72) 発明者 大庭 淳

東京都新宿区下落合1-3-22 鈴野化成株式会社内

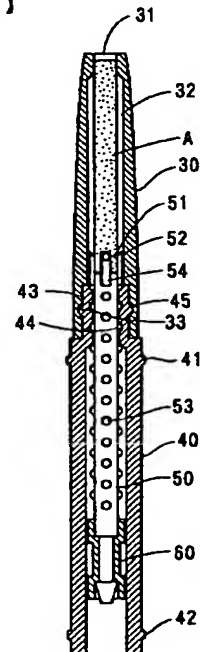
(54) 【発明の名称】 棒状化粧材容器

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 棒状化粧材繰出ユニットの先筒を前部筒体開口孔より突出させて使用可能とするキャップレス容器の提供を目的とする。

【解決手段】 前端に開閉自在な蓋体を備えた前部筒体と後部筒体とを回動可能に連結し容器本体を構成するとともに、棒状化粧材繰出ユニットを内挿する。この棒状化粧材繰出ユニットは内部に押棒50先端に形成された化粧材保持部51に棒状化粧材Aを支持させるとともに、先筒30と基体40との回動により前記棒状化粧材Aを軸方向に進退させる機能を有する。前記基体40には上部係合部41、下部係合部42が設けられ、前記前部筒体内の前部螺旋溝に基体40の上部係合部41が係合し、後部筒体内の後部螺旋溝には下部係合部42が係合する。

【図3】



【特許請求の範囲】

【請求項1】前部筒体とこれに回動可能に連結された後部筒体とで構成された容器本体と、

先筒と基体との回動により内挿された棒状化粧材が進退する棒状化粧材繰出ユニットを前記容器本体内に収容し、

前記前部筒体と前記後部筒体との回動によって前記棒状化粧材繰出ユニットを軸方向に移動する移動手段と、

前記移動手段によって前記容器本体の前端開口孔より前記棒状化粧材繰出ユニットの前記先筒を突出させ、この突出した前記先筒と前記容器本体とを相対的に回動させることによって前記棒状化粧材を進退させることを特徴とする棒状化粧材容器

【請求項2】前記前部筒体の前端に開閉自在な蓋体を備えたことを特徴とする請求項1に記載の棒状化粧材容器。

【請求項3】前記前部筒体内に前部螺旋溝を設け、前記前部筒体に回動可能に連結される後部筒体内には前記前部螺旋溝とは異なる方向の後部螺旋溝を形成し、前記棒状化粧材繰出ユニットの前記基体に上部係合部と下部係合部とを設け、

前記上部係合部を前記前部螺旋溝に係合させるとともに、下部係合部を前記後部螺旋溝に係合させて、前記棒状化粧材繰出ユニットの前記移動手段としたことを特徴とする請求項1及び請求項2に記載の棒状化粧材容器。

【請求項4】前記前部筒体内に前部螺旋溝を設け、前記前部筒体に回動可能に連結される後部筒体内には前記前部螺旋溝とは同方向且つリード角の異なる後部螺旋溝を形成し、

前記棒状化粧材繰出ユニットを構成する前記基体に上部係合部と下部係合部とを設け、

前記上部係合部を前記前部螺旋溝に係合させるとともに、下部係合部を前記後部螺旋溝に係合させて、前記棒状化粧材繰出ユニットの前記移動手段としたことを特徴とする請求項1及び請求項2に記載の棒状化粧材容器。

【請求項5】前記棒状化粧材繰出ユニットの、容器本体内部における最長移動距離は、前記基体に設けられた上部係合部と下部係合部との間の距離とすることを特徴とする請求項1～4記載の棒状化粧材容器。

【請求項6】内周面に螺旋溝が設けられた前記前部筒体と、

前記前部筒体に回動可能に連結される後部筒体と、前記後部筒体にはスリットを備えた延設部を設け、

前記棒状化粧材繰出ユニットの前記基体に突起を形成し、この突起を前記延設部に設けたスリットを介して前記前部筒体内の前記螺旋溝に係合させることによって、前記棒状化粧材繰出ユニットの前記移動手段としたことを特徴とする請求項1及び請求項2に記載の棒状化粧材容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、様々な利用方法が可能な新規な構造を有するアイライナーやアイブロー、リップライナー、口紅等の棒状化粧材の化粧材容器に関し。特に、キャップを必要とする化粧材容器であって、容器前端にキャップの代わりに開閉自在な蓋体を設けたキャップレスタイプの化粧材容器に関する。

【0002】

【従来の技術】キャップが容器本体から脱落しないように工夫された棒状化粧材繰出容器は、棒状化粧材を繰り出し、引き込みするための機構と、キャップを容器本体から脱落不能に保持する機構との兼ね合いを考慮した発明であるため、容器そのものの構造が複雑になるので、故障しやすくなるとともに、高価な棒状化粧材繰出容器となっていた。

【0003】例えば実開昭62-69935や実開平1-101420等がこのタイプの容器では知られているが、詳細な説明は省くが実開昭62-69935においては、図10、図11に示されているように外筒部材301より容器主筒306をスライドさせることによって繰出メカニズムが働き、棒状化粧材319が突出するという機構になっている。

【0004】当然ながら繰り出し時に上昇限度まで容器主筒306をスライドさせると、棒状化粧材も上昇限度まで繰り出されてしまう。

【0005】しかしながら通常において、使用者が棒状化粧材を使用する際に上昇限度まで繰り上げて棒状化粧材を完全に露出させて使用することは、新しい状態ではまずあり得ない。通常の太めの径の口紅ですら、そのように繰り出して使用すれば、簡単に折れたり欠けたりするためであり、線を引くのに使用するアイブローやリップライナーにおいては、言わずもがなのことである。

【0006】従って、通常使用者が棒状化粧材を用いる際は、棒状化粧材を使用に足る程度少量繰り出し、使用する。これは、棒状化粧材を購入した際に付加される使用説明書などにも必ず明記されていることである。

【0007】しかし、実開昭62-66935において述べられている棒状化粧材繰出容器を実際に使用すると、そのように少量繰り出して使用するためには繰り出しストロークの途中で使用しなければならないこととなり、蓋体303が使用の際には邪魔になるのみならず、完全にストローク分繰り出していないために外筒部材1と容器主筒306をスライドしてしまわないように固定しながら使用しなければならず、目や眉、唇などの繊細なポイントメイクに使用される棒状化粧材繰出容器としては、甚だ使用しづらいものになってしまうことになる。

【0008】また、実開平1-101420においては、記載されているだけでも13もの部材が必要であり、蓋体を後方に引き下げる機能と棒状化粧材を繰り出

し引き込みする機能を連動させているため、構造も複雑で、上記のような多量な部品点数を必要とするので、故障が起こりやすく、また組立コストにおいても上昇を招くものである。

【0009】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、このような問題点を鑑みて考案されたもので、以下のような利点を有する棒状化粧材繰出容器を提供することを目的としている。

【0010】(1) 棒状化粧材芯を進退させる機能を棒状化粧材繰出ユニットに持たせ、この棒状化粧材繰出ユニット自体を軸方向に移動させる移動手段と棒状化粧材芯を進退させる機能とを分離して備えた、部品点数が少なく、新規であり且つ構造が単純な棒状化粧材容器であり。

【0011】(2) 蓋体がワンタッチ式にて開閉可能であり、なおかつ繰り出し時には蓋体と棒状化粧材がある程度の距離が出来るために蓋体が化粧時の邪魔にならない。

【0012】(3) 本体と蓋体は一体のヒンジ方式で製造可能である。

【0013】(4) キャップレス容器として美観に優れ、通常時はコンパクトで携帯可能でありながら、使用時には安定した長さで使用することが出来る。

【0014】以上のことにより、安価で信頼性の高い化粧材容器を提供できるものである。

【0015】

【課題を解決するための手段】以上の問題を解決するため、第1の発明では、前部筒体とこれに回動可能に連結された後部筒体とで構成された容器本体と、先筒と基体との回動により内挿された棒状化粧材が進退する棒状化粧材繰出ユニットを前記容器本体内に収容し、前記前部筒体と前記後部筒体との回動によって前記棒状化粧材繰出ユニットを軸方向に移動する移動手段と、前記移動手段によって前記容器本体の前端開口孔より前記棒状化粧材繰出ユニットの前記先筒を突出させ、この突出した前記先筒と前記容器本体とを相対的に回動させることによって前記棒状化粧材を進退させた。

【0016】第2の発明では、前記前部筒体の前端に開閉自在な蓋体を備えた。

【0017】第3の発明では、前記前部筒体内に前部螺旋溝を設け、前記前部筒体に回動可能に連結される後部筒体内には前記前部螺旋溝とは異なる方向の後部螺旋溝を形成し、前記棒状化粧材繰出ユニットの前記基体に上部係合部と下部係合部とを設け、前記上部係合部を前記前部螺旋溝に係合させるとともに、下部係合部を前記後部螺旋溝に係合させて、前記棒状化粧材繰出ユニットの前記移動手段とした。

【0018】第4の発明では、前記前部筒体内に前部螺旋溝を設け、前記前部筒体に回動可能に連結される後部

筒体内には前記前部螺旋溝とは同方向且つリード角の異なる後部螺旋溝を形成し、前記棒状化粧材繰出ユニットを構成する前記基体に上部係合部と下部係合部とを設け、前記上部係合部を前記前部螺旋溝に係合させるとともに、下部係合部を前記後部螺旋溝に係合させて、前記棒状化粧材繰出ユニットの前記移動手段とした。

【0019】第5の発明では、前記棒状化粧材繰出ユニットの、容器本体内部においての最長移動距離は、前記基体に設けられた上部係合部と下部係合部との間の距離とした。

【0020】第6の発明では、内周面に螺旋溝が設けられた前記前部筒体と、前記前部筒体に回動可能に連結される後部筒体と、前記後部筒体にはスリットを備えた延設部を設け、前記棒状化粧材繰出ユニットの前記基体に突起を形成し、この突起を前記延設部に設けたスリットを介して前記前部筒体内の前記螺旋溝に係合させることによって、前記棒状化粧材繰出ユニットの前記移動手段とした。

【0021】

【作用及び効果】以上の手段を講じることにより、本発明の第1の発明の棒状化粧材容器においては、前部筒体とこれに回動可能に連結された後部筒体とで構成された容器本体と、この容器本体内部に先筒と基体を備えた棒状化粧材繰出ユニットを収容し、使用時には前部筒体と後部筒体との回動により容器本体の前端の開口孔より棒状化粧材繰出ユニットの先筒を突出させ、この先筒と容器本体とを回動させることで棒状化粧材芯の進退を行うので、化粧材容器の外観を形成する前部筒体と後部筒体が、ボーチ内でこすれて相対的に回動しても、いきなり棒状化粧材芯が繰り出されることのない、より安全性の高い化粧材容器が提供できるものである。

【0022】第2の発明においては、容器本体の前部筒体に蓋体を備えることにより、使用時に蓋体を無くしたりすることなく、保存時には、棒状化粧材芯を埃等から守るものである。

【0023】第3の発明においては、容器本体の前部筒体内に前部螺旋溝を設けて、後部筒体内には後部螺旋溝を形成し、棒状化粧材繰出ユニットを構成している基体に上部係合部と下部係合部とを設け、それぞれ各螺旋溝に係合するようにして、棒状化粧材繰出ユニットの移動手段としたものである。

【0024】すなわち、基体上部係合部は前部筒体の前部螺旋溝に係合し、下部係合部は後部筒体の後部螺旋溝に係合するものであるが、この状態で前部筒体と後部筒体とを回動させると、棒状化粧材繰出ユニットの基体は回動しながらの軸方向の移動を行い、容器本体前端開口孔より棒状化粧材繰出ユニットの先筒を突出させるものである。

【0025】第4の発明においては、容器本体の前部筒体、後部筒体の内部に、それぞれリード角は違うが同じ

方向の螺旋溝を設け、棒状化粧材繰出ユニットを構成している基体に上部係合部と下部係合部とを設け、それぞれ各螺旋溝に係合させたものである。

【0026】すなわち、基体上部係合部は前部筒体の前部螺旋溝に係合し、下部係合部は後部筒体の後部螺旋溝に係合するものであるが、この状態で前部筒体と後部筒体とを回動させると、棒状化粧材繰出ユニットの基体は回動しながらの軸方向の移動する。このとき棒状化粧材繰出ユニットは、片方の螺旋溝によって得られる繰り出しスピードよりも早い軸方向の移動が可能となるものである。

【0027】第5の発明においては、棒状化粧材繰出ユニットの容器本体内での最長移動距離は、棒状化粧材繰出ユニットを構成する基体の上部係合部から下部係合部までの間とした。

【0028】そのため、基体を長く設定した棒状化粧材繰出ユニットを用いると、使用時には棒状化粧材繰出ユニットの先筒の容器本体開口孔よりの突出量を長く出来るため、蓋体が邪魔になりにくいキャップレス容器を提供できるものである。

【0029】第6の発明においては、容器本体の前部筒体内に螺旋溝を設けて、後部筒体にはスリットを備えた延設部を設けた。

【0030】また、棒状化粧材繰出ユニットの基体には突起を形成し、この突起を後部筒体スリットを介して前部筒体内の螺旋溝に係合させることにより、棒状化粧材繰出ユニットの軸方向への移動手段としたものである。

【0031】すなわち、棒状化粧材繰出ユニットの移動距離はスリット後部載置部より前部載置部までの間となるわけであるが、棒状化粧材繰出ユニットの突起を、後部筒体のスリットに係合させることにより回転止めとして機能させ、さらにこの突起を前部筒体の螺旋溝に螺合係合させることにより繰出機能としても働かせるものである。

【0032】また、上記各発明の移動手段については、一方或いは両方の螺旋溝のリードと異なる繰出速度であっても容易に得ることができるので、一方の螺旋溝を持つ部品（例えば、前部筒体）の螺旋溝のリード角を変更するだけで、棒状化粧材の物性にあった、異なる繰出速度の化粧材容器をシリーズ化する事ができ、ひいては製造のコスト削減にもつながるものである。

【0033】

【実施例】本発明の実施例を図面に従って詳細に説明する。図1は、本発明の化粧材容器1を示し、図2は化粧材容器1を構成する前部筒体10と後部筒体20を回動させ、蓋体13を開いた状態を示したもので、棒状化粧材繰出ユニット2を、軸方向に移動させ、先筒30を突出させた状態を示している。

【0034】実際に化粧を施すときは、図2に示す状態で先筒30と容器本体3を回動させることにより、棒状

化粧材繰出ユニット2内の化粧材芯を突出可能としている。

【0035】図3は、棒状化粧材繰出ユニット2を表す一部縦断面図であり、この棒状化粧材繰出ユニット2は、先端開口孔31を備えた先筒30と、前部内径に螺旋溝44を設けた螺旋筒部43を備えた基体40を回動可能に連結し、内挿された押棒50の先端には爪片52よりなる化粧材保持部51を設け、この爪片52は先筒30内の軸方向に形成された摺動溝32に摺動するとともに、爪片52下部に設けた係合条部54は前記先筒の摺動溝32に係合して回転止め機能を構成している。

【0036】押棒50の軸方向には係合突起53が、爪片52の下方に列状に設けられるとともに、基体40の前部に形成した螺旋溝44に螺合係合して螺合機構を構成している。

【0037】このように構成された棒状化粧材繰出ユニット2の基体40と先筒30とを相対的に回動させると、押棒50に対し、先筒30側では回転止め機構が働き、基体40側では螺旋筒部43内の螺旋溝との螺合機構によって押棒50に繰出機構が働くため、押棒50は先筒30と同期の回転をしながら軸方向に移動を始め、押棒先端の化粧材保持部51に保持された棒状化粧材Aは、先筒30の先端開口孔31より突出を始める。

【0038】棒状化粧材Aを引き込むときには、先筒30と基体40とを前述とは逆の方向に回動すると前記繰出機構のメカニズムが繰入方向に働くため、棒状化粧材Aは棒状化粧材繰出ユニット2内に収容される。

【0039】図1に示してあるように、化粧材容器1は、前端に開閉自在な蓋体13を備えた前部筒体10と、これに回動可能に連結された後部筒体20とからなる容器本体3内に、前述した棒状化粧材繰出ユニット2を内挿している。

【0040】前部筒体10と後部筒体20とを回動させることによって前記棒状化粧材繰出ユニット2を軸方向に移動させ、前端開口孔15より先筒30を突出させ、次に容器本体3と前記先筒30とを回動させると、前述した棒状化粧材繰出ユニット2の先筒30と基体40とを回動することとなり、棒状化粧材Aが進退されることを特徴としている。

【0041】そのため、棒状化粧材Aを化粧材容器1内に引き込むためには、まず先筒30と容器本体3を逆に回動させて棒状化粧材Aを棒状化粧材繰出ユニット2内に完全に収容する。

【0042】次に容器本体3を構成する前部筒体10と後部筒体20を逆に回動し、前記棒状化粧材繰出ユニット2を容器本体3内に収容し、蓋体13を閉じることによって棒状化粧材Aの引き込み動作を終了する。

【0043】本発明の特徴は前述したように、化粧材容器1は開閉可能な蓋体13を備えた前部筒体10と後部筒体20よりなる容器本体3内に、棒状化粧材繰出ユニ

10

20

30

40

50

ット2を内挿し、前記前部筒体10と後部筒体20との回転によって棒状化粧材繰出ユニット2の先筒30の突出を図り、次に先筒30と容器本体3（前部筒体10もしくは後部筒体20のどちらか一方でもよい）との回転により棒状化粧材Aの進退を行うことである。

【0044】言いかえると、棒状化粧材芯を進退するための繰出機構と、この機構自体を軸方向に移動させる移動手段が分離することにより、キャップレス容器としては部品点数が少なく、構造が単純なことを特徴とする。

【0045】次に、本実施例における棒状化粧材繰出ユニット2の軸方向に移動させる移動手段について説明する。

【0046】図1に示すように、容器本体3を構成する前部筒体10内には、右ネジの前部螺旋溝11が形成され、後部筒体20内には前部螺旋溝11とは異なる方向の左ネジの後部螺旋溝21が形成されている。

【0047】棒状化粧材繰出ユニット2の基体40には、その表面の上部側に上部係合部41、下部側には下部係合部42が設けられ、前記上部係合部41は容器本体3を構成する前部筒体10内の前部螺旋溝11に係合し、下部係合部42は後部筒体20内の後部螺旋溝21に係合している。

【0048】この状態で、前部筒体10と後部筒体20とを正回転（時計回り）に回転すると、基体40は前部筒体内の前部螺旋溝11のリード（ネジを一回転させたとき軸方向に移動する距離）にも後部の後部螺旋溝21のリードにもない第3のリードで緩やかに回転しながら移動を始めるため、蓋体13をオープンした状態で棒状化粧材繰出ユニット2が緩やかに移動をし、図2に状態になることを可能とする。

【0049】同様のメカニズムで、前部筒体10と後部筒体20を逆に回転させると、棒状化粧材繰出ユニット2は容器本体3内に完全に収容される。

【0050】本実施例における棒状化粧材繰出ユニット2の容器本体3内での最長移動距離は、基体40に設けた上部係合部41から、下部係合部42までの距離となる。

【0051】上記理由により、本実施例に使用される棒状化粧材繰出ユニット2では、基体40が長い方が、先筒30の突出量を長く出来るため、蓋体13が化粧を施す際に邪魔になりにくい、化粧材容器1とすることが可能となる。

【0052】また、本実施例においては、前部筒体10内には前部螺旋溝11、後部筒体20内には後部螺旋溝21を形成しているが、前部筒体内と後部筒体内のねじ傾斜（ネジの方向）を異なる方向にすることを意図しているので、一方の螺旋溝に変えて軸方向と平行（リード角が90度）とする。或いは、前部筒体内を左ネジ、後部筒体内を右ネジとして逆回転（反時計回り）にすることによっても繰り出し可能であるものであり、本発明の

目的には何ら問題はない。

【0053】本発明の棒状化粧材繰出ユニット2の構造は、図3における構造に限定されるものではなく、先筒30と基体40の回転によって内部の棒状化粧材芯が突出可能になる形態のものであれば、本発明の目的に添って用いることが可能となるものである。

【0054】本実施例における、化粧材容器1の組み付け方法を説明する。

【0055】容器本体3を構成する後部筒体20内の後部螺旋溝21に、棒状化粧材繰出ユニット2の基体40の下部係合部42に係合させつつ、これを内挿していく。次に前部筒体10内の前部螺旋溝11を前記基体40の上部係合部41に係合させつつ、それぞれの凹部14と凸部22とを嵌合させることによって、前部筒体10と後部筒体20を連結することで、容器本体3の組付けは完了する。

【0056】図4、図5に示されているのは、本発明の第2実施例であり、図4は化粧材容器101の一部断面図であり、図5は棒状化粧材繰出ユニット102が容器本体103の前端開口孔115より突出して先筒130が回転可能になった状態を示すものである。また、第2実施例の図面の符号で特に説明のないものは、第1実施例と同様の部位の符号に100を足して示したものである。

【0057】この第2実施例は、内挿される棒状化粧材繰出ユニット102、及び後部筒体120は、図3の化粧材容器1における同様の部位と全く同一の構造となっている。

【0058】容器本体103を構成する前部筒体110内の螺旋溝が、図1における前部筒体10の前部螺旋溝11でなく、後部筒体120の後部螺旋溝121と同じ傾斜の前部螺旋溝119となっていることを特徴とする。

【0059】ただし、この前部螺旋溝119は、後部筒体120の後部螺旋溝121よりネジ山とネジ山の距離であるピッチが大きい螺旋溝として製作されている。そのため、第2実施例の棒状化粧材繰出ユニット102は、同じ回数を回転させても、第1実施例の棒状化粧材繰出ユニット2と比べると長く（繰出速度が早い）軸方向に移動する。さらに言えば、前部筒体の螺旋溝のリード角が90度、つまり、軸と平行の場合よりも、繰出速度を早く設定することができるのである。

【0060】第1実施例及び第2実施例のメカニズムを使用する利点は、容器本体3、103と棒状化粧材繰出ユニット2、102との間に他部材が干渉しないため、化粧材容器1及び101を細径に製作することが可能なことと、部材点数を最小にして機能可能なことが上げられ、また、ねじとねじのピッチ差、及び前部筒体と後部筒体が相対的に回転する際の摺動抵抗を利用して、容器本体と棒状化粧材繰出ユニットの回転止め機能として使

用するため、棒状化粧材繰出ユニット自体のロック機構を必要としないことにある。

【0061】つまり、先筒30、130の突出量に関わらず、容器本体3、103と先筒30、130を回動させれば棒状化粧材Aは進退し、化粧を施す際の、まぶたや唇に芯材を押し当てるという圧力を棒状化粧材芯にかけても、棒状化粧材繰出ユニットは容器本体内に引き込まれないと言うことである。

【0062】次に図6、図7、図8、図9に沿って、第3実施例にある化粧材容器201の説明をする。

【0063】図6は化粧材容器201の一部縦断面図であり、図7は前部筒体210と後部筒体220とからなる容器本体203の前部筒体210の縦断面図を表し、図8は後部筒体220の斜視図を表している。図9は、棒状化粧材繰出ユニット202の外観図である。

【0064】第3実施例の化粧材容器201の特徴は、図8における後部筒体220に顕著に表されている後部筒体220が、前部筒体210の螺旋溝218の部位に、後部筒体220の延設部227が重なっていることにある。

【0065】この延設部227には、スリット229が設けられ、このスリット229に図9における棒状化粧材繰出ユニット202を構成する基体240表面に備えられた突起243が、前記スリット229に摺動可能に係合する事によって回転止め機構として働き、さらに突起243は前部筒体210の螺旋溝218にも螺合係合する螺合機構とにより繰出機構を構成するものである。なお、このスリット229を螺旋を描くように成形すると、螺旋溝218によって得られるリードと異なる繰り出し速度の化粧材容器であっても、容易に提供することが可能となるものである。

【0066】そのため、棒状化粧材繰出ユニット202は、後部筒体220に設けたスリット229の後部載置部228bより前部載置部228aまでの間を後部筒体220と同期の回動をしながら移動可能となる。

【0067】第3実施例は前述の構成により、実施例1、及び2と違う下記の特徴を持つものである。

【0068】1. 棒状化粧材繰出ユニット202は、後部筒体220のスリット229と螺旋溝218とが交差する部分と同期の回転をしながら進退する。

【0069】2. 棒状化粧材繰出ユニット202を構成する基体240の突起243は一カ所でもよく、先筒230の繰出時のストローク量（最長移動距離）は後部筒体220の載置部の間の距離、即ち前部載置部228aから後部載置部228bまでの距離で決定される。

【0070】3. 後部筒体220の延設部227の肉厚分、化粧材容器の径は太い設計となる。

【0071】本発明による第1、第2、第3実施例とも蓋体は前部筒体と一体のヒンジ部による連結によって、1部材で製作可能となっている。

【0072】本発明はこの形態のみに限るものではなく、蓋体と本体とを別部材としてもよく、さらに、スプリングによって蓋体を閉じる方向に常時付勢してもよいものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明における第1の実施例の、化粧材容器の一部縦断面図である。

【図2】第1の実施例の、一部縦断面図である。

【図3】第1の実施例の、棒状化粧材繰出ユニットを示す一部縦断面図である。

【図4】本発明における第2の実施例の、一部縦断面図である。

【図5】第2の実施例の、一部縦断面図である。

【図6】本発明における第3の実施例の、一部縦断面図である。

【図7】第3の実施例の、前部筒体の縦断面図である。

【図8】第3の実施例の、後部筒体を示す斜視図である。

【図9】第3の実施例の、棒状化粧材繰出ユニットの外観図である。

【図10】従来のキャップレス容器の蓋体を閉じた状態を示す斜視図である。

【図11】図10の従来例のキャップレス容器の蓋体を開け、使用可能な状態にした図を示す斜視図である。

【符号の説明】

1	化粧材容器
2	棒状化粧材繰出ユニット
3	容器本体
A	棒状化粧材
10 . . .	前部筒体
11 . . .	前部螺旋溝
13 . . .	蓋体
14 . . .	凹部
15 . . .	前端開口孔
20 . . .	後部筒体
21 . . .	後部螺旋溝
22 . . .	凸部
30 . . .	先筒
31 . . .	先端開口孔
32 . . .	摺動溝
40 . . .	基体
41 . . .	上部係合部
42 . . .	下部係合部
43 . . .	螺旋筒部
44 . . .	螺旋溝
50 . . .	押棒
51 . . .	化粧材保持部
52 . . .	爪片
53 . . .	係合突起
54 . . .	係合条部

11

12

- 101・・・化粧材容器
 102・・・棒状化粧材繰出ユニット
 103・・・容器本体
 110・・・前部筒体
 115・・・前端開口孔
 119・・・前部螺旋溝
 120・・・後部筒体
 121・・・後部螺旋溝
 130・・・先筒
 201・・・化粧材容器
 202・・・棒状化粧材繰出ユニット

- *203・・・容器本体
 210・・・前部筒体
 218・・・螺旋溝
 220・・・後部筒体
 227・・・延設部
 228a・・・後部載置部
 228b・・・前部載置部
 229・・・スリット
 240・・・基体
 243・・・突起

10

*

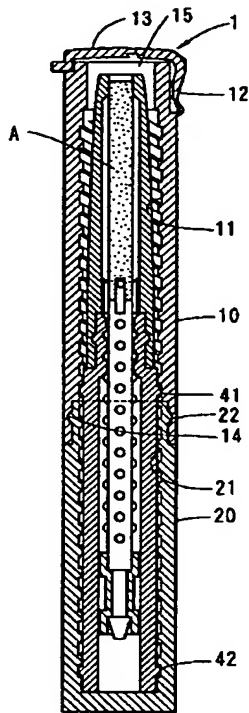
【図1】

【図2】

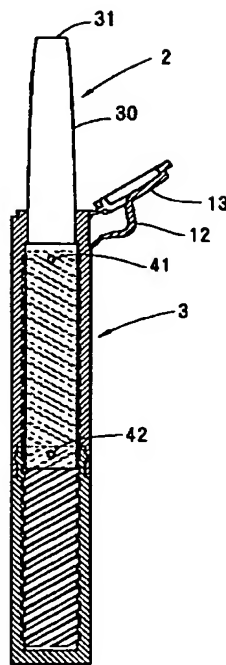
【図3】

【図5】

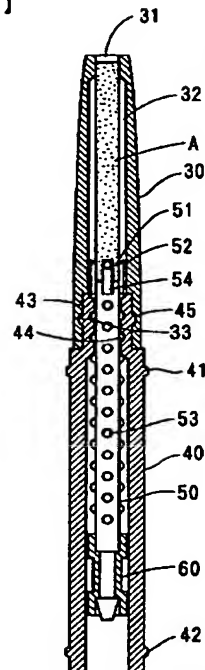
【図1】



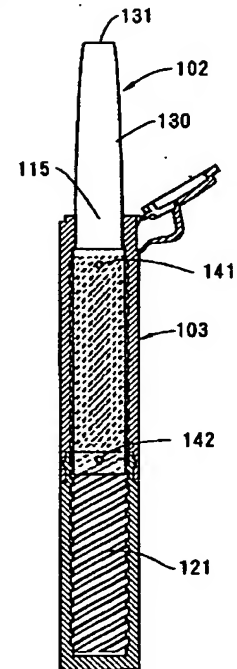
【図2】



【図3】

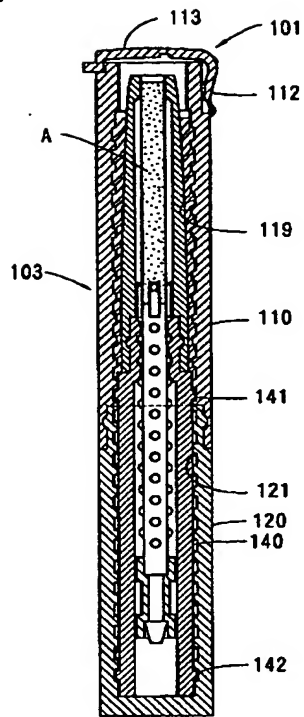


【図5】



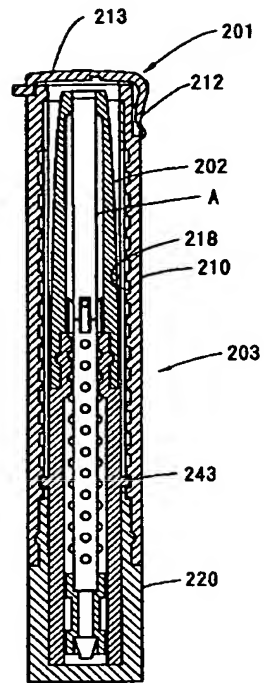
【図4】

【図4】



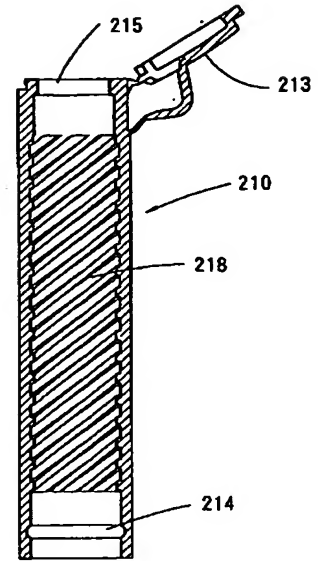
【図6】

【図6】



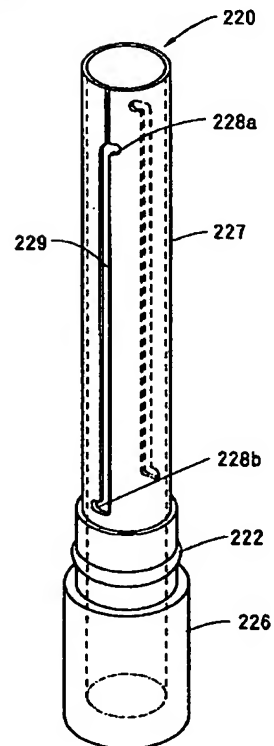
【図7】

【図7】



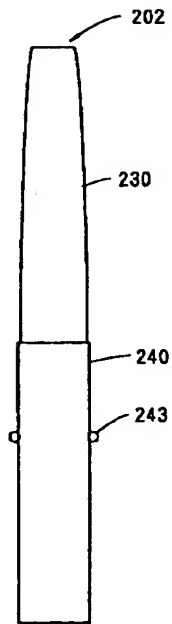
【図8】

【図8】



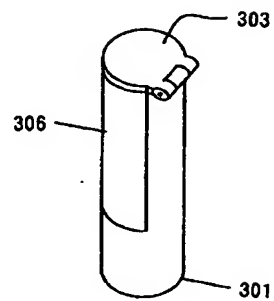
【図9】

【図9】



【図10】

【図10】



【図11】

【図11】

